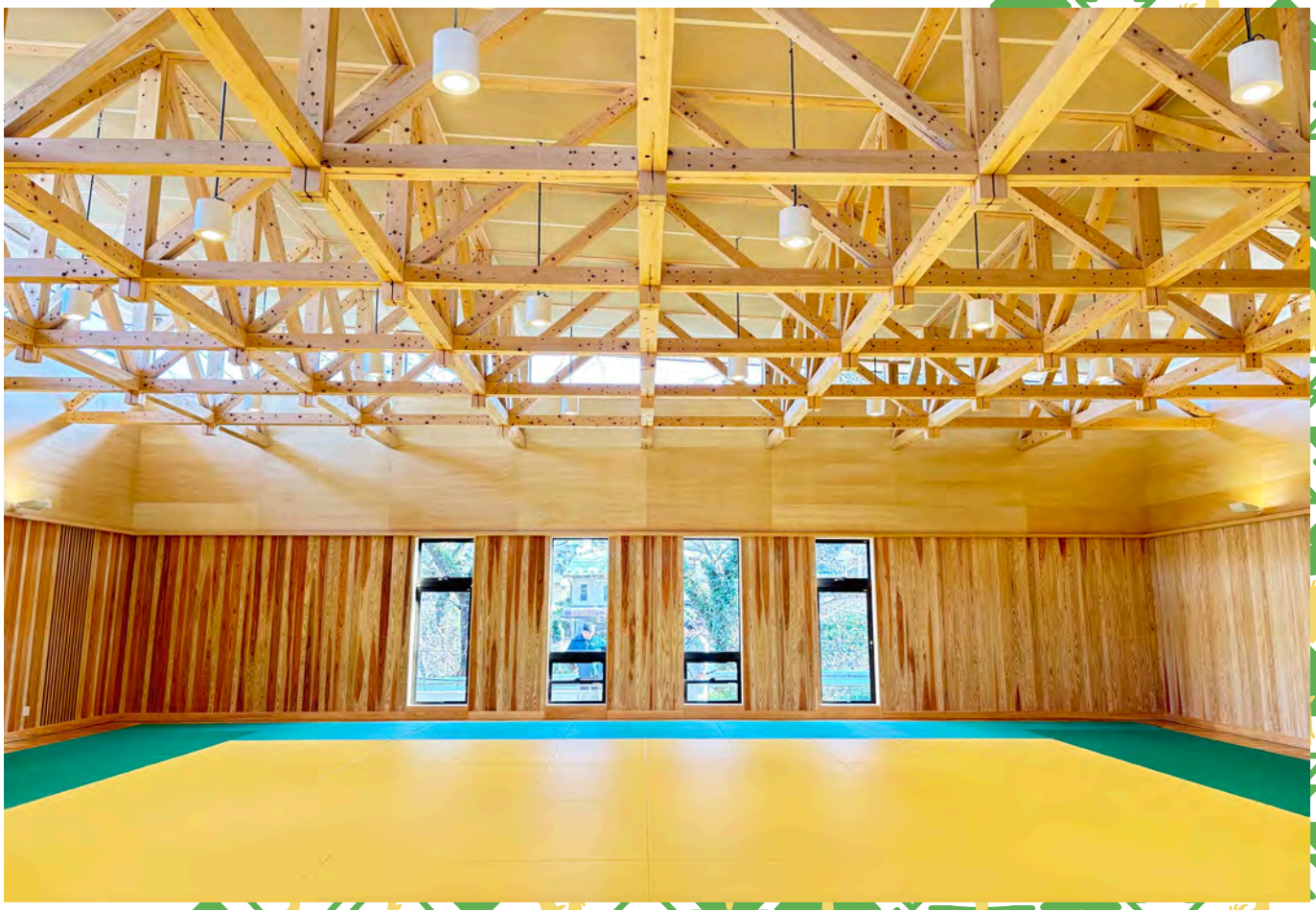
神奈川県森林協会

緑の斜面

令和７年07月31日発行
No.086



主要構造材「かながわ県産木材」100％の施設づくり（山北町立生涯スポーツセンター）

CONTENTS

森のニュース
1 令和元年東日本台風災害の林地被害報告 1
～相模原市緑区小原地内（底沢）における治山工事の紹介～
2 森林調査を効率化する森林DX（後編） 3
～地図を現場へ持っていこう～

森林環境譲与税の取組
山北町立生涯スポーツセンター 5
～これは、一つの体育施設建築にかけた、町の情熱の物語である～

わが市わが町
清川村 7
～水と緑あふれる心のふるさと～

森林づくり活動グループの広場
南足柄市　大雄町花咲く里山協議会 8
～ハッとし癒せる里山を～

事務局便り 10

森のニュース１
令和元年東日本台風災害の林地被害報告
～相模原市緑区小原地内（底沢）における治山工事の紹介～

神奈川県環境農政局緑政部森林再生課 森林企画グループ

１　はじめに

令和元 (2019) 年 10 月 12 日に伊豆半島に上陸した台風 19 号（令和元年東日本台風）に起因する大雨は、東日本を中心に各地に甚大な被害をもたらしました。神奈川県内ではとりわけ相模原市緑区の森林において、大小様々な規模の林地崩壊が多数発生し、大量の土砂や流木により、人的被害や住宅の倒壊等の甚大な被害をもたらしました。

本稿では、相模原市緑区小原地内の森林において発生した林地被害の発生から復旧工事完成までを御紹介します。

２　底沢集落の上流部に位置する森林崩壊

台風の大雨により、相模原市緑区小原地内に所在する底沢集落内の渓流上流部の森林が大きく崩壊しました。これによって大量の土砂や流木が人家内に流入したほか、県管理の坂沢林道や多数の家屋等が損壊する甚大な被害が発生し、住民救助のために自衛隊が対応する事態となりました。

３　復旧工事の実施

被災後は現地調査を実施し、復旧工事にあたって国の補助金を活用するために災害関連緊急治山事業の採択を受けました。

採択後、斜面上部の対策工事から着手しました。これと同時並行で実施していたボーリング調査結果によって斜面上部から中腹部にすべり面が存在することが判明しました。これにより、抑止工としてグラウンドアンカー工の追加施工や斜面中腹～下部の設計を変更・追加する必要が生じました。林地被害とともに路体流出など林道にも甚大な被害が生じていたことから、斜面上部対策工事とほぼ同時期に林道災害復旧工事も行われました。

斜面下部～渓流沿いにかけては、水路管理者である相模原市役所との調整結果から、床固工や護岸工、約８千㎥の土砂撤去工などの渓間工の追加施工の必要が新たに生じました。渓間工の施工にあたっては、一年を通して豊富な水量があり、周辺は小仏層群の頁岩などが多く、水に触れると脆く土砂化していくことなどから、廻排水施設の構築などコンクリート打設作業には大変な苦労が伴いました。

また、工事箇所に到達するまでのアクセス道が限られていることから、工事車両が地元の生活道路でもある林道を通行する必要がありました。地元の住民及び自治会関係者等から御理解御協力を得るために、毎年定期的に自治会へ説明を実施しました。そのほか集落下流部では、高速道路の橋梁架設工事等が実施されており、当該工事車両との通行調整も毎週行う必要が生じました。

このように本現場は早期復旧のため被災直後から工事着手したこと、アクセスルートが限られていること、常水が多い渓流でありながら脆弱な土砂が大量に分布する地質であることなど様々な制約がありました。このため「計画」「調査」「設計」「地元調整」「工事施工」の同時進行があったことが特徴になります。

４　復旧工事の完成

令和２ (2020) 年１月の調査設計から本格的に始まった復旧工事は、令和７ (2025) 年３月の完成検査合格に至るまでの約５年の歳月を要しましたが、施工業者をはじめとする関係者の皆様の御尽力もあり、無事故で復旧工事が完成しました。

５　今後の災害に強い森林づくりに向けて

近年は気象条件の変化等により山地災害が激甚化･頻発化しています。本現場はその証左の一つと示唆されます。今後、東日本台風のような大規模な被害をもたらす自然現象は県内各地のどこにおいても発生する可能性が高まりつつあると言えるかもしれません。

このような自然現象により災害が発生した際には、被害を最小限に抑えることや二次災害を防止することなど適時適切な対応が重要です。この適時適切な対応を実施するためには日頃から災害対応に向けた準備や技術研鑽が欠かせません。

現在、県では ICT を活用した計画立案や施工を推進しています。近年のドローンやスマートフォン・タブレット端末の普及、通信環境の向上などによって、三次元点群測量・解析や高精度な座標特定・管理が可能になっています。これにより省力

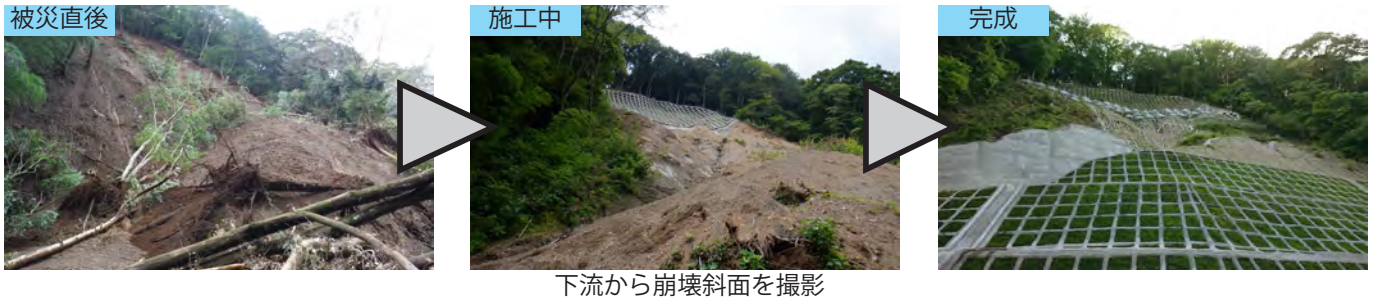
化を図りつつも迅速な災害対応が期待できる環境が構築されつつあります。実際、本現場ではドローンによる撮影結果を管理監督に役立てたり、レーザ測量によって土量計測をしたり、グラウンドアンカー工や鉄筋挿入工の施工位置を座標で確認するなど新しい技術の活用を行っていました。

引き続き最新技術の研鑽を日々積み重ね、森林の適切な保全に努めてまいりたいと考えております。（技師　佐々木向）

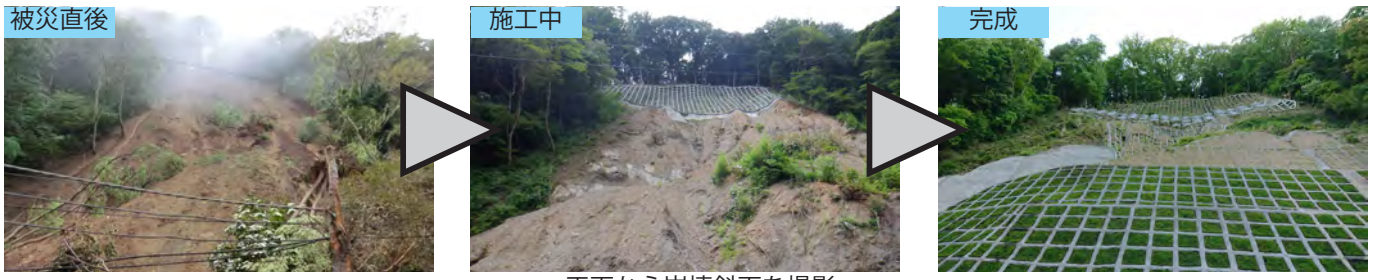
底沢治山工事　全体総括表

年	概要（※数量は概数です）	工期		事業費（千円）
令和元年度	測量業務一式、設計業務一式	R2. 1. 24	R3. 2. 26	9,790
令和２年度	現場吹付法枠工 1,500m2、鉄筋挿入工 730 本、土砂整理工 900m3、地質調査業務	R2. 6. 22	R3. 7. 31	256,861
	地質調査業務一式、設計業務一式	R3. 1. 12	R3. 6. 30	10,054
令和３年度	グラウンドアンカー工 51 本、排水ボーリング暗渠工８本	R4. 2. 7	R5. 3. 17	165,399
令和４年度	測量業務一式、設計業務一式	R4. 10. 4	R5. 8. 31	9,768
令和５年度	現場吹付法枠工 1,000m2、鉄筋挿入工 190 本、崩積土撤去工 1,000m3、簡易吹付法枠工 300m2	R5. 8. 31	R6. 3. 29	125,839
令和６年度	床固工２基、護岸工 150m、簡易吹付法枠工 1,100m2、残土処理工 6,500m3	R6. 6. 28	R7. 3. 31	186,452
計				764,163

下流から撮影（県営林道坂沢線）



下流から崩壊斜面を撮影



正面から崩壊斜面を撮影

上流部に設置した床固工を撮影

森のニュース２
森林調査を効率化する森林 DX（後編）
～地図を現場に持っていこう～

県央地域県政総合センター 森林保全課林業普及指導員

○はじめに

前号の森のニュースで、「森林調査を効率化する森林 DX（前編）」として、点群データの活用について取り上げましたが、今回は後編として、お手元のスマートフォンで気軽に活用できる地図アプリの紹介をしたいと思います。

○現地調査でお困りごとありませんか。

みなさんは現場調査に行く時に様々な図面を持って行くと思います。紙の図面を持って行った時、自分が今地図上のどこにいるのかわからない、写真撮影したけれど、どこで写真を撮ったのか分からなくなってしまった、現場の状況を紙の図面にメモしたけれど、帰ってきたらどのメモがどこの箇所の内容か分からなくなってしまった…等の経験は、誰しも一度はあるのではないでしょうか。

そんな時、スマートフォン等の端末で使える地図アプリを活用すると非常に便利です。端末内蔵の GPS と地図アプリを使って現在地の表示ができたり、地点登録をして説明や写真を登録したりすることができるので、事務所に帰ってきて、「この写真はどの地点の写真だったっけ…？」と混乱することがなくなります。

端末で使える地図アプリは様々なものがありますが、今回はシンプルで使いやすい使用感があり、現在当センターで導入している「Avenza Maps（アベンザマップ）」について紹介します。

Avenza Maps は、カナダ Avenza 社製の地図アプリケーションです。端末内蔵の GPS を使用して位置情報を取得するので、現在地の表示や、地点登録時等は通信回線を使用しません。また、予め現場の図面をアプリに登録しておくことで、電波のない環境でも図面上で現在地を確認できます。

○ Avenza Maps の使い方～図面を準備する～

まずは、現場に持って行きたい位置情報を付与した図面を準備します。図面は位置情報付きの PDF ファイルや TIFF ファイルを登録することができます。持ち出し用の図面は神奈川県森林クラウドシステム（QGIS 等の GIS ソフトでも可能）を使って簡単に作成ができるほか、QGIS のジオリファレンスの機能を使って紙図面をスキャンしたデータに位置情報を付与することで、紙図面を Avenza Maps へ登録することもできます。

※表示は iOS 版

○ Avenza Maps の使い方～現在地の確認・地点の登録～

準備した図面を端末に登録できたら、早速端末を持って現場へ行ってみましょう。現場に到着したら、まずは左下の方位記号マーク（①）をタップし、現在地を表示します。現在地表示させると今自分がいる場所が地図上に表示されます（②）。

現在地が表示されたら、現在地を地点登録してみましょう。地点登録ボタン（③）をタップすると、地図マーカーを編集する画面が表示されます（④）。この画面で地点名や説明、写真を登録する（⑤）と、登録した地点と代表的な写真が図面上に表示されます（⑥）。登録データには「地点名・位置情報・説明・写真」が紐づけられており、情報を一括で管理することができます。現在地ではない地点を登録したい場合は地図の中心にある十字線（⑦）を登録したい地点にセットすることで地点登録を行うことができます。移動経路のトレースもしてくれるので、歩いてきた経路なども後から確認することができます。

Avenza maps 及び森林クラウドシステムを活用した
災害調査・被害情報共有の流れ

○県央地域県政総合センターでの活用事例

当センター森林部では Avenza Maps を活用し、台風や豪雨等の災害調査を効率的かつ迅速に行えるよう取り組んでいます。

現地調査班毎に Avenza Maps を導入した端末を 1 台持参し、調査職員が被害状況等をデータ登録し、これを事務所宛にメールで送信することで、事務所で待機している取りまとめ担当職員が迅速に被害情報を収集することができます。登録データは csv ファイルの形式で送られてくるので、取りまとめ担当職員が報告様式に入力する必要がなく、また、登録データには位置情報が含まれており GIS 上で地点の登録をする必要がないので、作業の省力化を図ることができます。

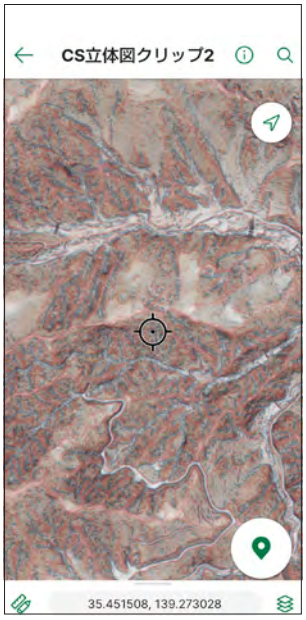
取りまとめた情報は、森林クラウドシステムを使い本庁や出先事務所と共有しています。森林クラウドシステムを使うので、市町村とも情報共有することが可能で、現在相模原市と試行的に情報共有を実施しています。

○市町村業務での活用について

伐採造林届出制度に係る事務として、現地で 5 条森林（地域森林計画対象民有林）の範囲確認をしたり、主伐箇所における伐採後の状況報告書の内容確認を現地で行なったりすることがあると思います。その際、5 条森林の範囲を載せた図面や届出者からの提出図面を Avenza Maps に取り込んで現場に持って行くことで、現地確認を効率的に行うことができます。また、山間地の現場の調査では端末に CS 立体図等の微地形表現図を登録しておくと、現地の詳細な地形や潜在的に崩壊危険度の高い箇所の把握等を行うことができます。

アプリ上で 5 条森林を表示

アプリ上で CS 立体図を表示



○まとめ

第 85、86 号では「森林調査を効率化する森林 DX」と題し、比較的業務に取り入れやすいツールについて連載しました。第 85 号で紹介した地上レーザ計測機器「OWL」は市町村への貸出が可能となっています。また、Avenza Maps には、iOS 版と Android 版があり、業務に使用する場合は有償ライセンスの購入が必要ですが、個人利用の場合は無償版を使用することができます。シンプルで便利なアプリなので、まずは気軽に試してみてはいかがでしょうか。「こんなことがやりたいけれど、何か使えるツールあるかな？」と思った時にはお近くのセンターの林業普及指導員へご相談ください。

――これは、一つの体育施設建築にかけた、町の情熱の物語である――

令和７年３月、神奈川県足柄上郡山北町に、主要構造部を県産木材100％とした木造施設「山北町立生涯スポーツセンター」が誕生した。地元の人々から愛称を募り、「でごにぃスポーツハウス」と名付けられたその施設。だが、その誕生の裏には、地元の木を使って町の施設を作るという、町の挑戦があった。

かつて、そこには山北体育館があった。しかし、平成31年２月、その体育館は老朽化により解体。地元からは新しい施設が待ち望まれていたが、JR東海の御殿場線が近くを走るため、重量のある建物は建てられない。必然的に軽い構造の木造と決まったものの、木材は複雑な流通経路を持ち、地域産材を使うことも容易ではない。

しかし、山北町は町の９割が森林。県内自治体で最大の森林面積を持つ「森林の町」である。何とかして、すぐそこにある地元の木を使って、町の施設を建てたい。

「材工分離発注」「木材調達調整会議」「被害材※」「構造材の制約」――この四つのキーワードを掲げ、町の職員を中心とした挑戦が始まった。

「材工分離発注」

通常の建築工事の流れを変え、「材工分離発注」により、町が山北町産材を１年前に「事前調達」する方式を採用した。まず、山北町、山北町森林組合、山北町教育委員会の３者が「地域木材利用促進協定」を締結。町は木材調達業務を発注し、山北町森林組合が受注。伐り出された木材は地域の製材所で一次製材し、一旦保管された。翌年度、町は一次製材品を使用する事を条件として建築工事を発注。受注した建設会社はJAS認証工場で二次製材、JAS格付をして、現場で建築工事に使用した。こうして、山北町産材の使用が可能となった（表1）。

「木材調達調整会議」

さらに、町は山北町産材の「事前調達」を円滑に進めるために、関係者が一堂に集まり調整を行う会議を立ち上げた。県内の林業・木材産業に関わるメンバーが参加し、伐採予定地の視察、試験伐採後の材質の確認、伐採した素材の確認、一次製材後の品質確認等、計６回開催され、意見交換、調整を重ねた。木材の伐採から建築まで、多様な業種・職種が関わるこのプロジェクトでは、「情報共有」こそが成功の鍵だった。

「被害材をどう使うか」

山北町産材の中には被害材があり、その活用は当プロジェクトの課題として初めから認識されていた。そこで、実際に加工し、強度試験を行ったところ、JAS認証材として規格をクリアできる材があることが判明。被害材も構造材に使用することが決定した。こうして、町の木を無駄なく活用する新たな試みが生まれた。

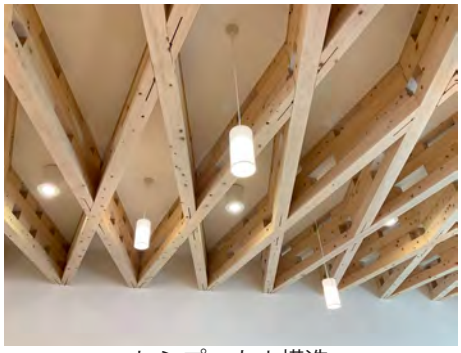
「構造材の制約を克服するには」

その制約が、むしろ革新を生んだ。県内のJAS認証工場で製材できる構造材は正角材※のみ。この制約の中で、最先端の技術を駆使した設計が実現した。伝統の在来軸組工法を基本として、３種類の屋根架構（重ね透かし梁※、レシプロカル構造※、二方向平行弦トラス構造※）、壁柱※を採用。それぞれの技術が、木造ならではの温もりを持つ施設の雰囲気を作り上げた。

建設費総額は約３億円。そのうち建築工事費にかかる部分は約２億円。その50%の約１億円には林野庁の交付金が活用された。「木材調達調整会議」で練り上げられた戦略の成果である。町負担分の一部には森林環境譲与税が充当された。令和元年度から譲与が開始されたこの税が地域の課題解決のために役立った（表２）。

このプロジェクトの設計・監理、木材調達支援を担ったのは、株式会

重ね透かし梁


レシプロカル構造

二方向平行弦トラス構造

社アカイワデザインスタジオの赤岩建築士。そして、共に木材調達支援を行った株式会社モリアゲの長野代表。二人を中心にした「木材調達調整会議」により「山北モデル」と呼ばれる新たな仕組みが誕生し、地域産材活用の可能性を示したのだ。

そして今、「でごにぃスポーツハウス」は、町の人々が生涯にわたりスポーツを楽しめる施設として息づいている。 町の木の香りとともに――

（事務局）

○山北町立生涯スポーツセンターの概要

・延床面積：498.33 ㎡（150.77 坪）
・建築面積：521.43 ㎡（157.77 坪）
・階数：平屋建て
・最高高さ：7.008 m
・工期
（設計）：令和４年 10 月～令和６年３月（基本・実施設計）
（木材調達）：令和５年９月～令和６年３月
（施工期間）：令和６月６月～令和７年３月

・（表１）事前調達木材量（最終製材寸法換算）（仕上げ材含む）

生産地別・樹種別	生産地別		樹種別		計
	山北町	周辺市町	スギ	ヒノキ	
材積（㎥）	99.4525	4.8744	21.2400	83.0869	104.3269
割合	95.33%	4.67%	20.36%	79.64%	100%

・（表 2）建設費内訳（金額は概算、単位：円）

工事種類	金額
建築工事	2 億
基礎工事、外構工事等	1 億
計	3 億

予算	金額
神奈川県林業・木材産業等振興交付金	1 億
町一般財源	1 億 8.9 千万
森林環境譲与税	1.1 千万
計	3 億

○木材調達調整会議の参加者

山北町教育委員会 生涯学習課（発注担当）
山北町農林課（町内林業担当）
神奈川県森林再生課森林企画グループ（県産木材の利用促進担当）
神奈川県県西地域県政総合センター森林保全課（地域林業普及指導等）
神奈川県森林組合連合会（県内林業経営体のサポート）
かながわ森林・林業活性化協議会（かながわ県産木材認証機関）
株式会社アカイワデザインスタジオ（設計者・木材調達支援）
株式会社モリアゲ（木材調達支援）
（受注以降）
山北町森林組合（町内林業経営体）
株式会社市川屋（かながわ県産木材認証生産者・JAS 認証工場）
株式会社大山材木店（かながわ県産木材認証生産者）
小髙材木店（かながわ県産木材認証生産者）

※（注）
被害材:昆虫のスギノアカネトラカミキリの食害を受けた材。スギ、ヒノキの材が被害を受け、スギでは黒く変色する場合もある。製材された材の中でスギノアカネトラカミキリが繁殖することはない。
正角材：正方形の断面を持った材。一般に柱などに使用される。
重ね透かし梁：正角材を重ねて構造用ビスで一体化した組立梁、交互に材を抜かして透かしを入れてある。
レシプロカル構造：部材同士が互いに支え合うことにより立体的に釣り合いを保つ構造。
二方向平行弦トラス構造：二本の平行な材を三角形のパターンでつなぐ構造。
壁柱：正角材を並べてボルトとビスでつないだ耐力壁。

ふるさとまつり

【清川村の紹介】

清川村は、首都圏 50km 圏内の神奈川県北西部の東丹沢山麓に位置し、東西 12.6km、南北９km、総面積 71.24 ㎢、人口約３千人の神奈川県で唯一の村で、全体が丹沢大山国定公園と県立丹沢大山自然公園に指定され、豊かな自然に恵まれています。

面積の約 90％が山林で占められており、煤ヶ谷には小鮎川、宮ヶ瀬には中津川がそれぞれの清流や渓谷美をつくり、四季折々の自然を身近に感じられる場として、多くの方々に憩いや安らぎを提供しています。

【水資源の確保】

約２億トンの貯水量を誇る首都圏最大級の宮ヶ瀬湖を有し、県民の皆さんの暮らしを支える良質な水を、県下 16 市５町に将来にわたって安定的に確保し、供給するため、水源地として水源環境の保全と再生に努めています。

水源環境の保全と再生のため、森林の持つ水資源貯留や水質浄化などの水源涵養機能の向上を目的として、平成 19 年度に施行された、かながわ水源環境保全・再生市町村交付金事業を活用し、荒廃が進む人工林の再生と保全に向け積極的に取り組んでいます。

令和元年度からは、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な財源を安定的に確保する観点から、国において森林環境税が創設され、村への譲与税を活用して、水源環境保全・再生市町村交付金事業では実施できなかった広葉樹林や小規模な針葉樹林の整備に取り組んでいます。

【清川村の魅力】

清川村は、全国水の郷 100 選に選ばれた水を育む宮ヶ瀬湖を中心として、年間を通して様々なイベントが開催され、また、道の駅では地元農家からの朝どれ野菜や清川茶、恵水ポークの加工品等の「きよかわブランド認定商品」などを販売しており好評を得ています。首都圏にありながら大自然に触れられることもあり、東名高速道路や圏央道を利用して多くの皆さんが訪れる観光地となっています。

暑くなるこの時期、日常を忘れ、豊かな自然の中で心ゆくまでリフレッシュしてみてはいかがでしょうか。

【８月イベントの紹介】

８月９日（土）

第 39 回 青龍祭

竹やカヤで造った雌龍・雄龍２頭を、雨乞い（あまごい）行事であった伝統文化「青龍祭」として再現したもので、打ち上げる花火と青龍太鼓の演奏によって祭りの雰囲気が大きく盛り上がる中、人々の願いをこめた祈願札を体中につけた龍が燃え盛る姿は圧巻です。

青龍祭

８月 13 日（水）～ 15 日（金）

第 39 回宮ヶ瀬ふるさとまつり花火大会

宮ヶ瀬ダム建設に伴い移住した住民と残った住民が、故郷を偲ぶために始まったお祭りで、現在では、多くの観光客が訪れる夏の風物詩となっています。

（清川村　建設農林課）

森林づくり活動グループの広場
南足柄市　大雄町花咲く里山協議会
（五本松・原 花咲く里山協議会）

シンボルとなる大雄紅桜（固有種、ここだけのものです！）

～ハッとし癒せる里山を～

南足柄市大雄町『五本松・原 花咲く里山協議会』は県の西部に位置し、里地里山活動対象面積は（13ha）で昔ながらの里山風景が残されている貴重な場所で活動しています。

この地区では、ざる菊、エンジェルトランペット、岩山つつじ等四季折々の花々の彩りが、山林、竹林、水田、畑といった里地里山景観を演出しています。

この様な場所を更に良くする為、私たちは平成９年に協議会を設立し、約 20 年間保全促進事業として里地里山の再生を皆で進めています。

また、同地区には大雄山最乗寺があります。お寺は応永元年（1394 年）に開山された曹洞宗の永平寺、総持寺に次ぐ三大名刹であり、130 ha の広大な森林を有する寺域には、樹高が 30 mを越す樹齢 350 ～ 400 年と推定される杉の巨木が林立しています。この杉の最も古いものは文禄元年（1592 年）に植栽されたという記録が残り、全国屈指の杉林といわれています。この杉林の林床には、シャガ、フユイチゴ、ヤブミョウガ、ウワバミソウなどが数多くの植物がみられ、境内の約 26ha が県の天然記念物になっています。さらに「かながわ美林 50 選」にも指定されています。最乗寺に向かう沿道には、夏のアジサイ、秋の紅葉など四季を通じて森林浴が楽しめますので、是非、大雄町にお出かけください。

ざる菊

日本一の材積蓄積といわれる大雄山の杉林

里地里山活動の紹介

私たち『五本松・原 花咲く里山協議会』の里地里山活動は次のとおりです。

①　里山を維持し、後世へ引き継ぐための事業
農林地、竹林等の保全再生整備・有害鳥獣対策

下草刈りの状況

② **里山の資源の有効利用に関する事業** ざる菊・桜祭り、ホタル観賞会

里山市場も同時開催する「ざる菊まつり」

ホタルの生態を学ぶ「ホタル観賞会」の様子

③ **地域住民及び都市住民に対する里山啓発事業** ソバづくり、ソバ打ち・餅つき体験

子どもたちも興味津々の「餅つき体験」と「米づくり体験」

④ **自然とのふれあい教育の育成事業** 田んぼの生き物教室、ざる菊・米作りレクチャーなど

田んぼの生き物を紹介する紙芝居

田んぼでの生き物ふれあい体験（もりっこ・泥んこ遊び）

⑤ **県、市、団体、企業等の関連事業**

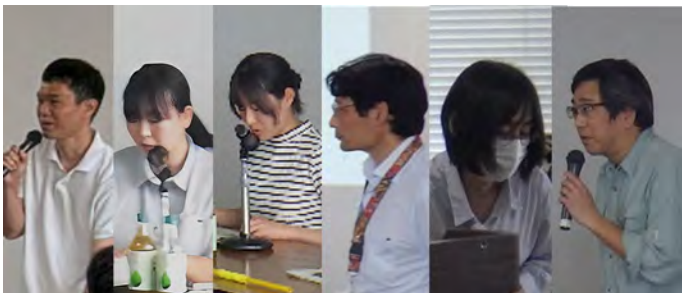
神奈川県、南足柄市、おんりーゆー、足柄ふれあいの村、かながわ森林インストラクターの会など、地域企業や団体と様々なイベントを共同開催しています。

今後の将来展望について

活動を始め 20 年が過ぎ、会員の高齢化も進み、また、課題も多種多様ではありますが、何とか地域全体で活動し、子供から大人まで豊かな自然を満喫し、誰もが心豊かな気持ちで過ごせる里山を次世代に繋げられるよう、今後も活動を継続していきたいと思います。（会長：山崎政行）

事務局便り
INFOMATION

研修の様子



講師の方々

1　第 16 回通常総会が開催されました

日時　令和７年５月 23 日　15：00 ～
場所　厚木商工会議所 101 会議室
議事　（１） 議案第１号
令和６年度事業報告及び収支決算報告
（２） 議案第２号
令和７年度事業計画及び収支予算（案）
（３） 議案第３号
令和７年度会費の賦課及び納入方法（案）
議案は原案通り承認決定されました。

また、厚木市森林組合の由水信大様が、長年にわたる森林・林業の振興発展に対する功績が認められ、会長より表彰されました。おめでとうございます。

2　かながわ市町村林政サポートセンターによる研修会の開催

（1）令和７年度森林・林業基礎研修

令和７年５月 16 日、23 日の２日間に渡り、足柄上合同庁舎にて今年度の市町村新任者を対象に森林・林業行政に関する基礎研修を開催しました。参加者は９市町 17 名（会場６名､ZOOM11 名）３組合７名（会場５名、ZOOM2 名）でした。神奈川県森林再生課が開催するかながわ森林塾「森林体験コース」の参加者とともに森林の調査方法や公益的機能の高い森林づくり等について学びました。

温暖化対策について
熱く語る天野氏

また、長年、森林の調査方法の講師を務めていただいた早稲田大学名誉教授 天野正博氏は今回で講師を辞められるということで、最後の研修になりました。天野先生は地球温暖化研究の第一人者で、初めて森林の CO2 吸収の話を聞く人にも、最新の研究成果を交えて、分かりやすい言葉で話してくださいました。長い間ありがとうございました。

（2）横須賀三浦地域における森林整備への活用を目的としたドローン調査事例報告会

令和７年６月 26 日に横須賀合同庁舎にて横須賀三浦地域県政総合センターと共催で報告会を開催しました。参加者は５市町９人、県関係５所属９人、その他３人、 計 21 人でした。県の県政総合センターに配備された ICT 機器を使用した森林調査、葉山町におけるドローンを使用した森林調査、葉山町によるそのデータの使い方などの報告がありました。それぞれ、具体的な内容で分かりやすい内容でした。

3 令和７年度市町村巡回打合せの実施

令和７年５月２日の三浦市を皮切りに、県担当と伴に県内33市町村を巡回して打合せを実施しました。最終日となる７月２日の寒川町まで、延べ19日間にわたってお伺いしました。年度初めのお忙しい時期にもかかわらず、各市町村の皆様には日程調整や巡回の対応にご協力いただきありがとうございました。毎年、この時期に全ての市町村にお伺いして、昨年度の実績や今年度の計画、地域で抱える課題などについて直接お話を伺っています。各市町村それぞれの考え方で、森林環境譲与税を活用した取組が進められており、その内容をお聞きすることは市町村支援の上でも非常に参考になります。他の市町村の事例なども共有しながら、地域に合った森林環境譲与税の使いみちを一緒に考えるきっかけになればと考えています。今後とも引き続き巡回を行い、市町村と意見を交わしながら、より効果的な支援につなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

4　表紙写真解説

山北町では、スポーツを楽しみ、コミュニティを深め、ウェルネスを創造というコンセプトのもと建築を進めていた『でごにぃスポーツハウス（山北町立生涯スポーツセンター）』が４月にオープンしました。この施設は、協会の木造・木育アドバイザー制度による建築士からのサポートもいただき、重ね梁や壁柱など先進的な木造工法を採用し、その構造材には町内をはじめとする県西地域産材を100％活用し完成しました。

木材調達については、神奈川県や県森連、製材所などで構成したプロジェクトチームを立ち上げ、川上から川下関係者との様々な情報共有やサプライチェーンを構築して進め、県内で初めてである材工分離発注で建築することができたことは、地域林業の活性化にも繋がっていくものと思います。

今後は、『森林の町やまきた』ならではの木の温もりを存分に感じながら郷土愛を育み、武道やスポーツを楽しみ、コミュニティが集う町のシンボル施設として多くの皆様にご利用していただきたいと思います。

でごにぃスポーツハウス（山北町立生涯スポーツセンター）　ミニ写真館

※でごにぃ：「鉄道の町　山北」のシンボル D52 型蒸気機関車の愛称。

入口の愛称表示

ダンス・体操室

エントランスホール

ピクトグラム

オープニングセレモニー

外　観

広報誌 緑の斜面 No.86　令和７年７月31日発行

編集・発行　神奈川県森林協会

住所　〒243-0018 厚木市中町２丁目13番14号 サンシャインビル６階604号

電話・FAX　046-240-0500